



「ウェルビーイング」の実現を目指す学校に

令和5年6月に閣議決定された第4期教育振興基本計画（令和5～9年度）には、「ウェルビーイング」という概念が入っており、「調和と協調のウェルビーイング」を日本型ウェルビーイングとして、世界に向けて発信していこうという動きが明確になっています。

また、本校の教育目標「人間性豊かでたくましく、志をもって主体的に学び、よりよく生きる生徒の育成」を端的に表現したものとして、「～Well-being（ウェルビーイング）の実現を目指す学校に！～」があります。具体的には下のように【目指す生徒像】を設定し、教育活動を行っているところです。

【目指す生徒像】

- ① 真理と正義を尊び、豊かでたくましく柔軟性のある心と身体づくりに努める生徒
- ② 志をもって主体的に学び、生涯にわたってよりよい生き方を求める生徒
- ③ 自然や郷土を愛し、自他の人権・個性を尊重し、協働して社会に貢献できる生徒

「ウェルビーイング」とは

一般的に、「ウェルビーイング」とは『体と心と社会の良い状態』のことで、一言でいえば「幸せ（な状態）」であるといえます。ただし、英語の“happiness”とは少し異なります。“happiness”は一時的な幸せを指していますが、「ウェルビーイング」はもっと長続きする幅広い意味での幸せを指しています。

「ウェルビーイング」が注目されてきた背景

「ウェルビーイング」が近年、注目されてきたのには学問的な理由と社会的な理由があるそうです。学問的な理由は、心理学の分野で「幸せな状態」に関する分析研究が盛んになったからだそうです。また、その研究成果として、「幸せな人」は創造性が3倍高く、生産性が30%ほど上がり、より健康で、欠勤率や休職率が低く、寿命が7～10年長くなることなどが分かっているそうです。社会的な理由としては、日本人の価値観が「モノの豊かさ」から「心の豊かさ」へと移ってきたことが挙げられるそうです。そんな中、「心豊かに持続的な発展を目指したい」という人々の思いが、SDGsやウェルビーイングへの注目という形で現れてきているようです。

実際に電通の全国調査（※）結果を見ると、2022年に20.8%だった「ウェルビーイング」の認知度が、2024年には31.1%と、ここ3年で年に約5%ずつ上がってきています。数年後には、多くの人が認知しているものとして「ウェルビーイング」が「SDGs」と並ぶことが予想されます。（※ 第18回「ウェルネス1万人調査」）



「日本型（調和と協調の）ウェルビーイング」

まず、欧米社会でのウェルビーイングは、「獲得志向的ウェルビーイング」がベースで、「スキルを磨く」「学歴を身に付ける」「お金を得る」などといったことが幸せにつながっていくという考え方です。この「獲得型」は、いわゆる「自己実現型」といえるのかもしれませんが、私たちの欲求は自己実現で完結せず、その先があるそうです。実現した自己を「他者のために生かしたい」と願うのだそうです。

日本社会の特徴には、「空気を読む」というものがあります。（悪く言われることもありますが）一生懸命アピールしなくてもちゃんとみんながわかり合えて、お互いに思い合っていて気遣ってくれる、実は温かさを感じる社会でもあります。

第4期教育振興基本計画に、日本型ウェルビーイングとして「調和と協調のウェルビーイング」が示されているように、「獲得型」ともうまく組み合わせ、まさに「調和と協調」によって、よりよい社会、共助型未来社会を作ることができるのかもしれません。

